

うえだ News 環境市民会議

平成17年3月15日
第16号

発行：
うえだ環境市民会議
〒386-8601
上田市大手一丁目11-16
上田市生活環境課内
電話：0268-23-5120
FAX：0268-25-4100
seikatukankyo@city.ueda.nagano.jp

うえだ環境市民会議は、市民・事業者・市のパートナーシップにより、7つのワーキングチームにわかれ、環境をよくする活動に取り組んでいます。それぞれのワーキングチームの活動を紹介します。

第6回うえだ環境市民会議を開催しました

日時：2月21日(月)

会場：清浄園

参加者：35名

講演会：演題「環境ISOから家庭生活を考えよう」

講師：柴崎茂利氏 シナノケンシ(株)常勤監査役
環境ISOネットワークリーダー

環境の国際規格であるISOのルールに従い、環境マネジメントシステムに取り組む企業の活動をご紹介いただきました。ISO14001はPDCA(計画、実施、点検、改善)の仕組みを継続的に取り組んでいくことが特徴的で、より多くの企業がこの手法を取り入れ、共に行動することでより大きな成果が得られるということです。企業の活動には環境に対してマイナスな面がありますが、それをISOの手法により独自の尺度で環境への影響を測り、その影響を小さくしていくために活動していくこととなります。企業においては環境負荷の低減、省資源、特定化学物質の使用禁止などさまざまな法律の整備に対応し、企業の社会的責任を果たしていかなければなりません。事業所から出る廃棄物については細かな分別によりゼロエミッションを進め、目標値を定めてリサイクル率を上昇させることとなりますが、家庭生活においてもごみの排出や電気などのエネルギー使用を環境側面と捉え、目標を立てて環境負荷の低減を図ることでISOと同じ効果を得ることができます。企業においても家庭生活においても、環境にやさしいということは、周りの人への配慮、他人に迷惑をかけないという意識が基本にあるということです。

魅力ある「うえだ環境市民会議」にするために

/ 議長：竹内 秀夫

平成17年2月21日に清浄園で開催された「第6回うえだ環境市民会議」において、魅力ある「うえだ環境市民会議」にするためにはどのようにしたらよいか、ということでメンバーの方々から60にもおよぶ意見を頂きました。本当にありがとうございました。

それらをまとめてみますと、プロジェクトチームへ組織を改編した方がよいという意見が、今までどおりのワーキングチームでよいという意見を上回っていました。それから、環境市民会議全体で取り組むプロジェクトやPRの必要性などが数多く寄せられていました。

事務局ではこれらの貴重な意見を踏まえて、組織の改編や活動の仕方、PRの方法などについて検討を重ねて行きたいと考えています。そして、検討過程はできるだけ「うえだ環境市民会議 News」で報告していきたいと思っておりますので、それに対するみなさんのさらなるご意見を事務局にお寄せ頂ければ幸いです。

なお、「第6回うえだ環境市民会議」において、提出された意見は下記のとおりです。

①ワーキングチームのままがいい

- 各テーマが名前になっているのが多いようです。プロジェクトチームに変える事については現在の活動自体がまだ理解できておらず、結論は出せない状態です。個人的にはなじみやすい今のチーム名の方が、目的がぶれなくて良いように思います。
- 組織は今のままで参加者を増やしてからでも直していけば良いと思います。
- 環境学習は充実していた。新しいテーマも見つけたところなので、そのテーマでプロジェクトチームになるのか。
- ごみ減チームは次の課題(マイバック持参)があるので、これは積み上げていったほうが良いと思う。山口さんの案に賛成。

②プロジェクトチームへ改編

- プロジェクトチームへの改編に賛成
- 議長の提案どおりワーキングチームの見直しが必要だと思う。ワーキングチームの中でうまく活動できませんでしたから。
- 各プロジェクトが折々その進行過程を発表できる機会を持つことにしたい。その結果(成果)を全戸配布の広報で知らせる。
- いろいろなグループが過去何十年も研究してきた。何をやるにもそれらの継続で進めたい。
- 各プロジェクトは、関係する諸団体とうまくつながって、そこから更に発展させていく。
- 私は環境についてこういうことがしたい、ということをも市民から募集。似た事がしたい人でチームを作る。
- これが市の計画に基づくかは疑問だが、「私は千曲川の鳥を観るのが好きです」「太郎山にはスマイレの花が咲いています」そういう同じ目標を持つ人が自発的に集まるのがよい。
- ワーキングチームでプロジェクトを…よりも、プロジェクトごとにしたい人が集まってチームになればいいと思う。
- 市民にこの市民会議の存在が知られていない。チームが難しくして個人が参加しづらい。
- 初めて参加させていただきました。具体的なプロジェクトができたならその1つに参加させていただきたいと思います。
- 環境問題は間口が広すぎるので各ワーキングチームが関連したことをやってきたように思う。
- この指とまれ方式(やりたい人が声をかける)なら、自分の都合で参加できて楽しそう。
- プロジェクト制にし、PDCAのサイクルで活動することが必要。

③全体で取り組むプロジェクトが必要

- 全体で取り組むプロジェクトも必要。
- うえだ環境市民会議全体で取り組む課題を設ける。2～3点。
- 市民会議として大きなテーマと各プロジェクト(個人の好きなテーマ)がうまくつながったものにするとうれしく更に発展していくと思う。
- 環境についてのテーマをできるだけ目標のはっきりした課題に絞ってプロジェクトを組むことに賛成します。希望の人はいくつかに加入する事もできるとする。
- 大きな目標と小さな目標をこつこつと進めることが前進させる力になってくる。
- 環境に関する間口が広すぎるので、テーマをしぼったほうが良い。

- ・市民が参加できる行動計画を各ワーキングチームが立案し、イベント的な活動として協同で開催する。
- ・具体的なテーマのもとに、いろいろなプロジェクトが多方面から取り組んでいく。

【④計画を立てて活動する】

- ・年間計画を立てて活動すべき。
- ・目標をきちんと立ててグループ分けをして進めていくべきである。環境基本計画の6つの目標に沿ったもの。偏らないように。
- ・目標がきちんとあって、それに沿って活動したほうがわかりやすくいい。
- ・明確なテーマを持って活動する事は賛成します。
- ・環境基本計画に基づいて「うえだ環境市民会議」が設立されたので、基本計画に沿った活動をすべきである。
- ・行政からの声を生かした活動も必要。
- ・行政から「うえだ環境市民会議」に望むものがあるべきなのでそれに沿うことも大事。

【⑤具体的な活動テーマ】

- ・松くい虫の講演を聴いて、市の農林部長に予算を削れと言いつつ行ったが、市民が消毒しろと言う。何かやることがあるような気がする。
- ・廃棄物処理場建設のことに取り組む。
- ・生ごみを燃やさないというのを全体で取り上げて欲しい。
- ・大小河川の源流をたどり水源地の山の様子(地質、植生)、上田市の千曲川までの水利用を知る(水の大切さ)。ハイキング気分で見学・学習する。
- ・景観(人工物)歴史的に残しておくべき建造物等の見学を通して、どう保存していったらいいか考える。
- ・風力発電と猛禽類、霧が峰、美ヶ原草原について。
- ・水のテーマを復活してほしい。
- ・高齢化=少子化を考えていただきたい。
- ・環境学習チームだけの学習会もいいが、多様化する環境、温暖化等の話も聞きたい。

【⑥積極的にPRして参加者を増やす】

- ・まず参加者を増やすことだと思います。
- ・上田市環境基本計画を各自再読して4月に会をもち、年度の計画を各チームで立て、それに沿って広報で一般市民に呼びかけていけば会員も増えると思う。主旨を再確認したい。
- ・環境市民会議Newsは出ているが、市民に広報等でPRしたほうが良いではないか。
- ・もっと行政でも活動の様子や環境を良くしなければならぬことを知らせる。
- ・市民会議のあることをまず市民に知らせる事だと思います。多くの市民はこの会があることを知らない。
- ・上田市の「うえだ環境市民会議」のアピール不足。
- ・環境について一般の人たちは無関心ですから、今のままで行くと10年20年後の私たちの生活はこうなりますと、おりあるごとに知らせれば、市民会議参加者が増えると思う。
- ・中学生、高校、大学生も参加してよいのでは。
- ・環境会議に参加して吸収したことがたくさんあります。もっと多くの方に！
- ・一般市民に広げるなら名称そのものが難しすぎる。

【⑦環境ISOネットワークについて】

- ・ISOネットワークとして中小企業のEMS構築支援に積極的な行動計画を作り、推進する。
- ・ISOネットワークは組織的取組支援団体として市民会議とは別の行動団体であろう。
- ・環境ISOネットワークは企業のネットワークとして市民会議とは独立させた方がよいのでは。
- ・最近なのですが上田市環境ISOネットワークの活動の中でいろいろ話を聞かせてもらいました。各サイトでの活動を聞かせてもらいました。それらの活動が相互コミュニケーションとして水平展開される身近な場があればよいと思っていたのですが、これがうえだ環境市民会議なのかと今認識した次第です。この場を信用ゲームの場として、皆で学ぶ場として活用していけば良いと思います。

【⑧その他】

- ・ネットワークで環境活動すると環境も変わるのではないかな。
- ・環境活動はすぐに結果が出ない。
- ・うえだ環境市民会議の目指す方向が良くわからない。
- ・市民・企業・行政で組む事が一番進むと思う。PDCAの理解と活用。

- ・環境のことを勉強するのではなく行動をする市民会議であってほしい。

自然豊かな山と川を育むまち

●2月24日ミーティング開催

- 松食い虫被害林を天然更新により混交複層林へ導く、方策の提案について
市職員林務係高見沢、市川両職員 地方事務所小島職員と話し合う。
- ・松食い虫被害林の対策は被害の程度、所有者の意向によりそれぞれの対策をしている。
- ・混交複層林、広葉樹林の施業体系が確立していない。
- ・混交複層林へ導く施業を試みているが、まだ実施して間もないので見てもらうほどの成果が出ていない。
- ・間伐率を30%より多くし、つる類の発生を抑えながら、広葉樹の発生を試みている。
- ・通常の手入れも特に個人山には手入れ不足がある。
- ・上田市は空中薬剤散布による防除対策は平成17年度も所有者の意向により実行できるよう県へ要望している。
- ・県としては、環境問題に配慮し、年々縮小し平成20年には全廃したい。
以上説明を聞き、空中薬剤散布や皆伐によらない混交複層林へ導く、方策の提言をいろいろの方面へ辛抱強くしていく必要があると思う。なお、適切な林を見つけ住民グループでの実践の必要を感じた。
- ②市指定樹木・樹林・文化財の更なる保存と、市民へのアピールへの提言について

環境 ISO ネットワーク

【上田市役所の環境ISO14001規格「自己宣言」の検証のための監査をしました】

上田市役所では、環境の国際規格ISO14001を登録認証機関の審査を受けずに、「自己決定」し「自己宣言」に移行したことを踏まえ、上田市環境ISOネットワークのメンバー及びうえだ環境市民会議代表により検証のための第三者環境監査を行いました。

監査結果としては、上田市が導入しているISO14001に基づく環境マネジメントシステムを監査し、システムが市役所内で確立され、実施・維持されていることを確認しました。同時に監査チームは、環境方針に示された「自然環境共生都市」の実現の意味では、更なる拡充を図るべき領域があることも確認し、システムの継続的な改善を図ることも期待します。

うえだ環境市民会議の活動には、誰でも、どのワーキングチームにも参加できます。参加ご希望の方は、上田市生活環境課までご連絡ください。豊かな環境を未来に残すために、一緒に活動しましょう。

事務局 上田市生活環境課内：電話 0268-23-5120

※誰もが安心して健康に暮らせるまち、うえだの景観、地球SOS、ごみ減(530)、環境学習の活動報告はありません。